

## 2012MHC 登山講習 奥秩父 金峰山と瑞牆山登山 報告

6月23日(土)AM6:00、13名が3台の車に乗り合わせて松本を出発。曇天模様の天気。一路、中央高速道路を走り、須玉インターで降りて、小一時間山道を走ると、AM8:10 瑞牆山荘登山口に到着する。満杯状態の駐車場に辛うじて停車し、準備を整え AM8:40 出発。森林帯を抜け、登り1時間で富士見平小屋、さらに1時間で大日小屋脇を経由して、いよいよ金峰山目指して、今を盛りと咲き誇るシャクナゲ林の急坂を登る。



森林帯を抜け、富士見平小屋へ 大日小屋付近からシャクナゲ林が広がる 岩石帯の急登路を登る

登り30分で50mの岩峰大日岩脇を過ぎて、さらに急登路を登り続け、途中林の中で昼食を摂る。中休止後、岩石帯を30分程登り詰めると、砂払ノ頭と呼ばれる岩稜線に登り出る。ここからは、前方の稜線の彼方に、山頂に憩う人々の姿や金峰山の名物五丈岩が小さく望まれ、眼下には霧が流れ、登ってきた高度を実感する。



前方の稜線に山頂が望まれる

金峰山の名物五丈岩

金峰山の頂に全員登頂「バンザイ！」

息を切らし、疲れた足取りで岩石群の悪路を登り詰めて行くと、PM2:00 標高2599mの金峰山の頂に全員登頂する、「バンザイ！」。山頂からは、霧雲が覆い遠望が効かない。しかし、北西方向に視界が開け、瑞牆山2230mの岩峰そそり立つ孤高の姿を望む。30分ほど休憩後、頂上の北側直下に建つ金峰山小屋に下る。PM3:00 全員到着、泊す。夕食後戸外に出ると、北西眼下の暮れ行く夕闇に、小海沿線の街の灯りが明滅している。明日の好天を祈って、AM8:00 就寝する。



山頂からの瑞牆山

朝焼けの朝を迎える

稜線に咲くイワカガミ

6月24日(日)AM4:30 起床。天候は晴、夜明けを迎え、東上空一面が朝焼けに輝いている。朝食後、準備を整え、AM6:15 出発する。岩稜線を慎重に下降し、シャクナゲ林を抜けて、AM9:15 富士見平小屋へ到着する。中休止後、瑞牆山を目指して、いざ出発する。歩き出すと木々の間から、瑞牆山の大岩峰がそそり立って見える。森林帯の中、一旦下降し、一休みの後、沢筋の悪路をひたすら登る。



瑞牆山沢筋の悪路をひたすら登る AM11:30 瑞牆山頂 2230mに見事登頂 山頂から大絶壁を眼下に望む

シクナゲ林が谷間を覆う暗い急登路、倒木を越え、大きな岩の間を抜け、一步、一步急坂を登る。山頂近くの鞍部から、北へ回り込み、岩場に架けられたロープを頼りに、体を迫り上げて、シクナゲ林のトンネルを抜けると、AM11:30 瑞牆山頂 2230mに見事登頂する。「おめでとう！」登って来た反対側は数百mの大絶壁となっていて、眼下を覗くと身が震えるようだ。



雲海に浮かぶ瑞牆山と八ヶ岳



薄紅色に咲く、シクナゲ



シクナゲのトンネルを抜けると瑞牆山の頂へ



山頂に霧がかかる、午後の瑞牆山

天上のような頂に、30分程憩い、昼食後下山を開始。往路と同じ登山道を、緊張しながら下降する。PM1:45 富士見平小屋に到着。小休止後、軽い足取りで森林帯を下り、PM2:15 登山口に無事到着する。そこから車に再び同乗し、往路と同じ道を引返し、須玉インターから高速を走り、PM4:30 松本へ到着、解散とした。「シクナゲ林に彩られた金峰山と瑞牆山、その美しさと足元の悪い岩石群の登降を学んだ登山講習だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則